

Fujitsu モダナイゼーション リライトサービス・リホストサービス

# Fujitsu PROGRESSION

ソリューション概要のご紹介

# 既存の資産を活かしたDXを可能にする、 富士通のモダナイズ [Fujitsu PROGRESSION]

「Fujitsu PROGRESSION (プログレッション)」は、富士通が提供するメインフレーム資産のソースコンバートツールを活用して、COBOLアプリケーションをオープン環境に対応したソースへ変換するリライト・リホストサービスです。

リライトとリホストの2つのモダナイゼーション方式に対応しており、お客様資産の今後を見据えて最適なモダナイゼーション方式を選択頂く事が可能です。

## リライトサービス



既存COBOL資産を、Java等の最新言語に変換した上でオープンシステムに移行するソリューション

### おすすめするケース

- 既存システムを最新技術で持続させたい
- 将来性を考えて、最新技術を取り込んでいきたい

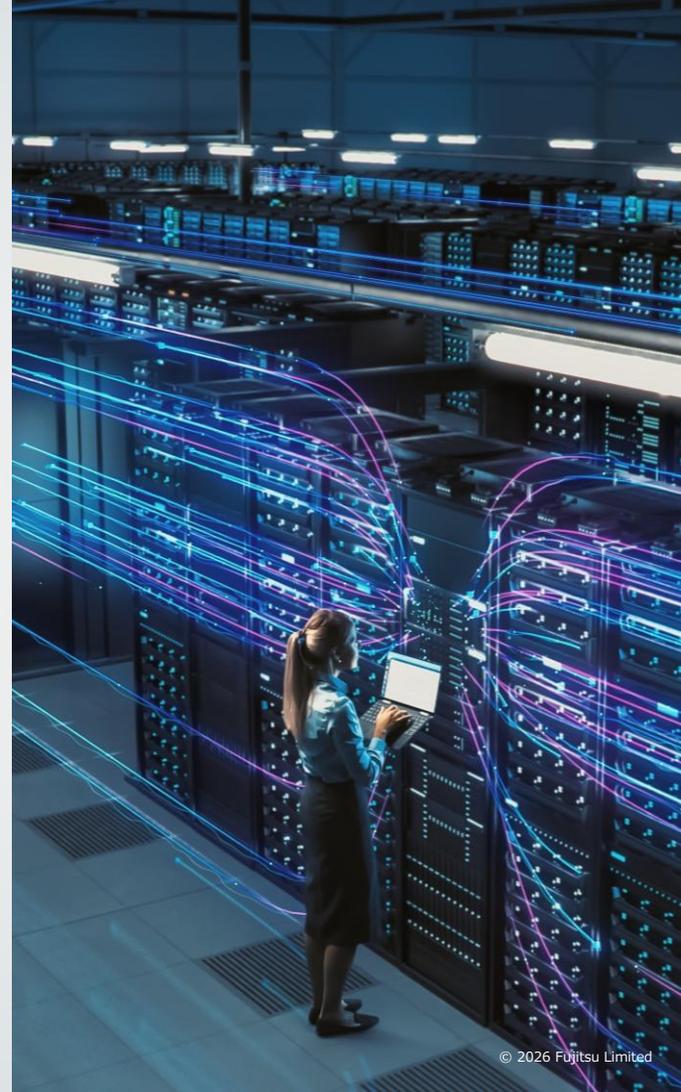
## リホストサービス



既存COBOL資産を、オープンシステム上でそのまま活用できるように変換するソリューション

### おすすめするケース

- 従来通りの体制・人員でメンテ運用を続けていきたい
- 業務システムを使い慣れた開発言語で維持したい



Fujitsu PROGRESSIONの特長

# Fujitsu PROGRESSION

## 3つの特長



### 最適解を選択可能

- JavaへのリライトとCOBOL環境へのリホスト、2つのモダナイズ方式に対応
- 資産の状態やお客様の方針に応じて、**最適なモダナイズ方式**をご提案



### 富士通グループソリューション

- 様々な業種でのシステム構築で培った**SI技術を組み合わせ**てサービス提供
- 富士通グループの開発製品のため、**迅速かつ細やかな技術サポート**が提供可能



### 国内外での多数の実績

- 富士通製メインフレーム「**GS21シリーズ**」に対応
- 国内外メインフレームを中心に、**20年以上**にわたり多くのお客様の移行に成功  
(リライト：海外中心に**50社** / リホスト：国内中心に**90社**)

Service 1

# Fujitsu PROGRESSION リライトサービス

## Fujitsu PROGRESSION リライトサービスの概要



アプリケーションのビジネスロジックには手を付けずに、  
メインフレーム資産をオープン環境に適したJava等の言語へと変換します。

JCLやAIM/NDB、VSAMなどの移行（定義体変換）にも対応しています。

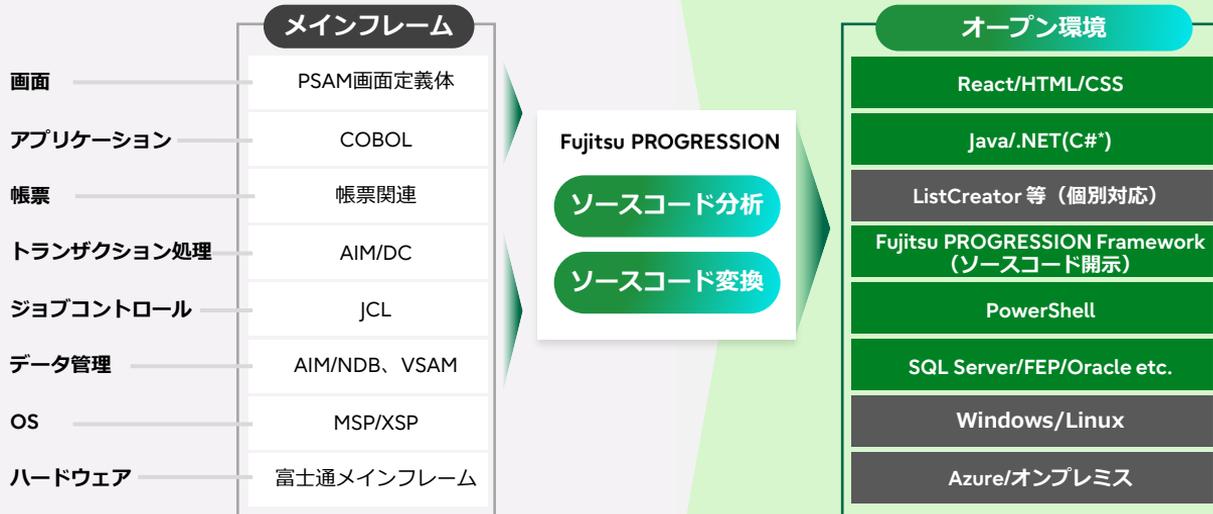
### リライトサービス



既存COBOL資産を、Java  
等の最新言語に変換した上  
でオープンシステムに移行  
するソリューション

#### オススメする ケース

- 既存システムを最新技術で持続させたい
- 将来性を考えて、最新技術を取り込んでいきたい



※ C#への変換は個別対応可能

# Fujitsu PROGRESSION リライトサービスを利用した モダナイゼーションの流れ

- 1 対象資産特定・PoCフェーズにて、移行対象資産を確定し、本サービスの適用可否を判断します。
- 2 後続の設計工程で技術要素を検証し、変換工程でロット単位に資産変換し段階的に全資産を移行します。

	対象資産特定※	PoCサービス PoC	コード変換サービス 設計	変換	機能テストサービス 現新比較テスト	テスト (IT/ST/OT)
標準期間	4~10週間	2~3か月	4~6か月	プロジェクトに依存	プロジェクトに依存	プロジェクトに依存
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行資産における使用/未使用、不足/重複資産の特定</li> <li>ホスト利用機能の特定</li> <li>移行対象資産の確定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定機能の<b>変換及び動作検証</b>(対象資産特定結果を踏まえたPoC対象の調整)</li> <li>サービスの<b>適用可否判断</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリ移行概要設計、処理方式設計</li> <li>サービス未対応のホスト<b>技術要素のツールエンハンス</b>を実施</li> <li>プロトタイプによる<b>技術要素検証</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資産を<b>ロット分割</b>しロット毎にサービスによる<b>変換</b>を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>変換作業完了後</b>、現新比較テストを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変換作業完了後、結合テスト(IT)、総合テスト(ST)、運用テスト(OT)の支援を実施</li> <li>テストによるQAや障害対応を実施</li> </ul>

 **スクリプト生成ツール**  
**現新比較用データ成形ツール**

 **次ページで紹介**

※ 対象資産特定フェーズは、モダナイゼーション関連サービス「Fujitsu 資産分析・可視化サービス」をご提案いたします。

凡例：  
 リライトサービス提供範囲  
 他サービス、SI対応範囲

# Fujitsu PROGRESSIONリライトサービス 機能ピックアップ

## スクリプト自動生成ツール / 現新比較用データ成形ツール

現行ホスト環境の操作ログから、移行後のオープン環境で同一操作を自動実行するテストスクリプトを生成。これにより、オープン環境へのモダナイズにおける、オンライン画面の現新比較を容易に行うことが可能になるため、コスト削減と品質向上が期待できます。



FUJITSU

Fujitsu PROGRESSION

スクリプト自動生成ツール  
現新比較用データ成形  
ツール  
デモンストレーション

YouTubeで動画を再生

Service 2

# Fujitsu PROGRESSION リホストサービス

# Fujitsu PROGRESSION リホストサービスの概要



メインフレーム用のCOBOL資産を、オープン環境で動かせるCOBOL資産へと変換。ビジネスロジックに変更を加えずにシステム移行できます。

アプリケーション以外のジョブコントロール、データ管理、帳票部分の各種定義体も、オープン環境対応に変換します。

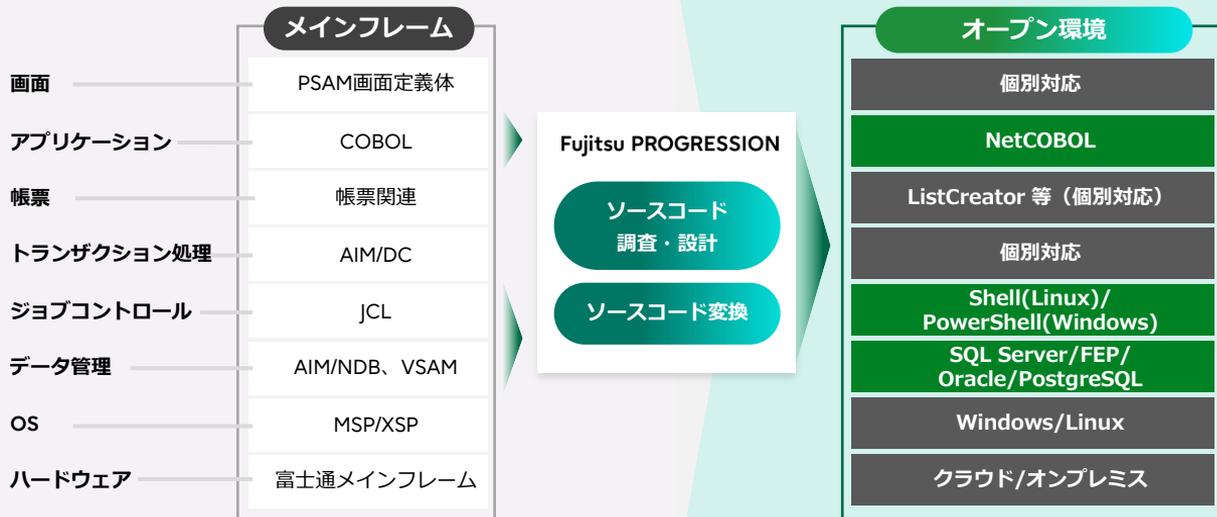
## リホストサービス



既存COBOL資産を、オープンシステム上でそのまま活用できるように変換するソリューション

### オススメするケース

- 従来通りの体制・人員でメンテナンスを続けていきたい
- 業務システムを使い慣れた開発言語で維持したい



※画面部分とトランザクション処理部分の変換対応は後報

# Fujitsu PROGRESSION リホストサービスを利用したモダナイゼーションの流れ

- 1 確定された移行対象資産に対して、非互換調査を実施し、本サービスの変換可否を判断します。
- 2 後続の工程で資産の変換設計後、変換作業工程でロット単位に資産変換し段階的に全資産を移行します。

	対象資産特定※	リホストサービス			現新比較テスト	テスト (IT/ST/OT)
		非互換調査	変換設計	変換作業		
標準期間	プロジェクトに依存	2か月～	3か月～	プロジェクトに依存	プロジェクトに依存	プロジェクトに依存
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行資産における使用/未使用、不足/重複資産の特定</li> <li>ホスト利用機能の特定</li> <li>移行対象資産の確定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確定された<b>移行対象資産</b>の新環境との非互換を調査し非互換機能の対処方式を検討</li> <li>調査の結果報告からサービスによる<b>変換可否判断</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロトタイプによる<b>技術要素検証</b></li> <li><b>変換仕様</b>として非互換機能の具体的な修正方法を策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>非互換要素のツールエンハンス</b>を実施資産を<b>ロット分割</b>し、ロット毎にサービスによる<b>変換</b>を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変換作業完了後、現新比較テストの支援を実施</li> <li>テストによるQAや障害対応を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>結合テスト(IT)、総合テスト(ST)、運用テスト(OT)の支援を実施</li> <li>テストによるQAや障害対応を実施</li> </ul>

※ 対象資産特定フェーズは、モダナイゼーション関連サービス「Fujitsu 資産分析・可視化サービス」をご提案いたします。

凡例：  
 リホストサービス提供範囲  
 他サービス、SI対応範囲



# Road to 3X

## Modernization

富士通の豊かな知見を束ねた、モダナイゼーションが示す道  
DX SX GXまで伴走します。